旭川別院だより

真宗大谷派旭川別院

旭川別院だより
新年号
2025
発行所　真宗大谷派 旭川別院
輪番事務取扱　梛野　大輔
〒070-0030 旭川市宮下２丁目
TEL.0166-22-2409
FAX.0166-22-2411
■印刷：植平印刷株式会社
■旭川別院ホームページ
旭川別院 | 検索

南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

帯広市　大昭寺住職　中野　誠二

人間が人間を自覚する道

今回は前号（二〇二四年十一月号）までに述べたことをとおして、「正信偈」にある親鸞聖人の「如来所以興出世　唯説弥陀本願海」（真宗聖典第二版二二七頁〔初版二〇四頁〕）のお言葉をたずねたいと思います。この言葉のもとは『仏説無量寿経』にあります。

如来、無蓋の大悲を以て三界を矜哀したまう。世に出興したまう所以は、道教を光闡して、群萌を拯い恵むに真実の利を以てせんと欲してなり。

（真宗聖典第二版八頁〔初版八頁〕）

ここで言う「如来」とは、「釈迦・諸仏」（真宗聖典第二版二七八頁〔初版二四五頁〕）のことです。また「無蓋」とは蓋がない、限りがないことを意味します。つまり、仏さまは無限なる大悲心をもって、我々の迷いの世界を哀れんでくださっているということです。

次に、その「如来」がこの世に生まれ出たわけについて述べられます。「道教」とは仏道の教えのことです。これを廣瀬杲先生（一九二四～二〇一一）は、「凡夫が仏になる教え」（CDで学ぶ浄土真宗③「海と群萌」真宗大谷派 名古屋別院）と語られました。人が人になる教え、あるいは仏によって人が人として自覚される教えとも言いかえることができるでしょう。この自覚について、安田理深先生（一九〇〇～一九八二）が次のようにお示しくださっています。

仏教では自覚ということが大切である。だから仏を覚者という。仏教は自覚の道、人間が人間を自覚する道である。たとえ念仏とか本願で助かるといっても、仏教であるかぎり自覚という意義をもつ。

（『安田理深講義集』2「親鸞における主体の問題　信心」一〇頁　彌生書房、二〇〇〇年）

「覚者」とは目覚めた者という意味です。人間が人間自身を自覚しようとしたら、都合の良いようにしかしません。それは「真実の利」によって恵まれるものです。親鸞聖人はこの「真実の利」について、「弥陀の誓願をもうすなり」（真宗聖典第二版六六四頁〔初版五四二頁〕）と註釈されました。つまり、弥陀の本願によって我々衆生を済度するというのです。ですから「道教を光闡して」とは、凡夫が仏になる、人間が人間を自覚する教えをあきらかにし、その本願念仏の仏道によって「群萌」（衆生）を拯うと言われるのです。この経文の心が「正信偈」のお言葉の根底にあります。

よろずの衆生

では、この「群萌を拯い恵むに真実の利を以てせんと欲してなり」のお心とは、どのようなものなのでしょうか。親鸞聖人が著された『尊号真像銘文』には、次のように記されています。

「欲拯群萌」は、「欲」というは、おぼしめすとなり。「拯」は、すくわんとなり。「群萌」は、よろずの衆生をすくわんとおぼしめすとなり。仏の、世にいでたまうゆえは、弥陀の御ちかいをときて、よろずの衆生をたすけすくわんとおぼしめすとしるべし。

（真宗聖典第二版六五〇頁〔初版五三一頁〕）

ここで注目すべきことは、「群萌」を解釈するにあたって、繰り返し「よろずの衆生」という言葉を用いている点です。「よろずの衆生」を漢字に直すと「万」ですが、これは略字ですので、もとの字では「萬」です。ですから、「よろずの衆生」を旧字体で表すと「萬の衆生」となります。この「萬」という字には、『新漢語林』（大修館書店）によると「さそり。毒虫の名」の意味があるそうです。

聖人は『正像末和讃』の中で、「愚禿釈親鸞」（十一月号参照）と名告る自身の内なるありようをさそりに喩えています。

悪性さらにやめがたし　こころは蛇蝎のごとくなり
修善も雑毒なるゆえに　虚仮の行とぞなづけたる

（真宗聖典第二版六二三頁〔初版五〇八頁〕）

自らの心を「蛇蝎のごとく」と吐露されます。つまり、蛇や蝎のように毒を持って生きている存在だということです。悪性なる毒は本来具わっているものなので、なくそうとしてもなくせるものではありません。仏果（さとり）を得ようとするさまざまな善行も、煩悩の毒が混ざってしまうため、すべて嘘偽りの行だとうたわれるのです。

蛇蝎奸詐のこころにて　自力修善はかなうまじ
如来の回向をたのまでは　無慙無愧にてはてぞせん

（真宗聖典第二版六二三頁〔初版五〇九頁〕）

「奸詐」とは邪な偽りのことを言います。ですから「蛇蝎奸詐」もまた、毒や偽りの心をもっている自分自身の内実のことです。「如来の回向」である仏さまのはたらきとしての念仏を申し、そのお心を聞くことがなければ「無慙無愧」、つまり「申し訳ない、恥ずかしい」という心がないままに、一生は空しく過ぎてしまうであろうと述べられるのです。

親鸞聖人がご自身の心を「蛇蝎奸詐のこころ」と言い得たのは、群萌を拯わんと誓う「真実の利」、つまり弥陀の本願によって、嘘偽りの心を持ち無慙無愧の我が身であることをよく思い知らされたからなのでしょう。そこに「愚禿釈親鸞」と名告られた、本当の意味での人間としての豊かさがあるのだと思います。

人間の最大の責任

社会学者であり心理学者でもある加藤諦三[1]（一九三八～）さんがパーソナリティを務めるHBC（北海道放送）のラジオ番組に、「テレフォン人生相談」があります。ある回で加藤さんは、「私が私自身になることが、人間の最大の責任です」と、おっしゃっていました。人生がいつ終わるにしても何歳まで生きたとしても、自身における「最大の責任」は「私が私自身になる」ことだと言うのです。では、「私が私自身になる」その「私」とは、一体どのような「私」なのでしょうか。親鸞聖人は、「釈迦・諸仏」のお勧めによって本願念仏のお心を聞き開き、自らが「愚禿」なる存在であることを深く信知されました。それが「私自身」の「私」であり、加藤さんの言葉になぞらえれば、この自覚こそが聖人における「最大の責任」であったのでしょう。

まさに、このたびの慶讃法要のテーマ「南無阿弥陀仏　人と生まれたことの意味をたずねていこう」は、仏さまと親鸞聖人からの私たち一人ひとりに対する、「あなたは一体なにを出世本懐とし、なにを人生の最大の責任として生きているのですか」との限りない問いかけに違いないのです。

（完）

[1] 一九三八年東京都生まれ。作家。早稲田大学名誉教授。四十年以上パーソナリティをつとめるニッポン放送系ラジオ番組「テレフォン人生相談」に出演中。（公式ホームページより）

謹賀新年

輪番事務取扱
梛野　大輔（北海道教務所長）

責任役員
○金倉　泰賢
新谷龍一郎
佐古　光臣
荒井　保明

常議員
○加藤　亨　○宗隆　教信
諏訪　宣雄　塚本　信樹
生駒　雅彦　木下　雅之
熊崎　智浩　田中　祥子
福本　清

院議会議員
○相河　孔輝　○藤岡　明良
○旭　正依　○松澤　正樹
○桂　励　○埴山　和成
○桑谷　一成　○吉田　幸麿
新田　守　小澤　聡
佐藤　英行　尾田　泰一
荒木　靖人　向井　敏純
薮越百合子　屋敷　桂子
武藤　満　安藤　信幸
木津　勝　鈴木　康弘
三上　定子　池田　由恵
二坂　徹　倉橋　恒彦
針田留美子　脇坂　崇志

監事
梶　勝洋　小城　公明

本年もどうぞ宜しく
お願い申し上げます。
（順不同・○印　崇敬寺院御住職）

まことのことば　たよりとするものが何一つなくなり、空っぽになったときにはじめて底にあるものがみえてくる（林　暁宇）

新年退任ご挨拶

真宗大谷派 旭川別院 前輪番
太田法生

新年を迎え関係各位皆様には、益々ご法隆のことと、お慶び申し上げます。

ご門徒の皆様には昨年十一月末日をもって、病気療養の為、輪番の職を辞することとなりましたこと、誠に申し訳なく、ご迷惑をおかけすることとなりましたことに、深くお詫びを申し上げます。

二〇一九年七月に輪番として赴任させていただいて、五年四ヶ月にわたり、ご門徒皆様をはじめ、職員の皆様に支えられながら、無事大過なく務めさせていただいたこと、重ねて厚く感謝申し上げます。

さて、在任中にはコロナウィルスの感染症をはじめ、ウクライナへのロシア侵攻、イスラエル、パレスチナ中東情勢戦闘の長期化、能登半島地震と豪雨被害、環境汚染による地球温暖化と自然災害など、人間中心社会の限界と無力さを感じずにはいられないことでありました。

かねてより仏の智慧によって、私達人間の邪見・驕慢のすがたは、聞法によってのみ悲喜のこころを賜り、念仏申す生活とともに、愈々聞法精進させて頂くことの大切さを教えられることであります。

どうか今後ともお寺に足を運ばれて、共に聞法の身とならんことを念じながら、退任のご挨拶とさせて頂きます。

尚、昨年十二月より、列座主任であられました大野信氏が、後任の輪番が赴任されるまでの間、副輪番としてその職務を引き継ぐこととなりましたので、宜しくご支援ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

別院子ども会

旭川別院子ども会は、年三回のお寺でのお泊り会に加え、万華鏡作りや、いちご狩りとイベントが盛りだくさんです。

広い本堂をのびのびと走り周り、大きな声でレクリエーションを目一杯楽しむことは、お寺を身近に感じてもらえる一時ではないでしょうか。本年もぜひ、お寺で楽しみましょう。

春季彼岸会

令和七年　三月十九日(水)～二十一日(金)

「亡き人からいただいた尊いご縁に出あう大切な行事」

旭川別院では、春と秋のお中日（春分の日、秋分の日）に彼岸会法要をおつとめします。彼岸とは、覚りの世界「浄土」という意味です。亡き人を偲ぶ事を通して、亡き人と出遇いなおし、そして自分自身の帰すべきところを定めよと呼びかけておられます。

皆様におかれましては、この機会を大切にしていただきますよう念じまして、是非ともお参り下さいますようご案内申し上げます。

時間　午後一時～
場所　本堂
講師　菊地　得典 氏（湧別町聖明寺住職）

ごあいさつ

真宗大谷派旭川別院 責任役員
佐古光臣

明けましておめでとうございます。昨年の報恩講には、大谷暢文鍵役が参修され、太田輪番のもと「和暢会の雅楽演奏もあり」厳かに務まりました。東北以北最大の広さのお御堂が、満堂に成るほどの多数の参拝者があり、喜びに堪えません、仏法相続護寺の思いの賜物です。さて太田輪番には昨年十一月末をもって任期六カ月を残して退任されました。

体調を崩してのことで残念でなりません、任期の五年四カ月の間、私共別院門徒に念仏の教えをお導き頂き有難う御座いました、ありふれた言葉ですがお礼の挨拶とさせて頂きます。自坊に戻られてゆっくりと静養なされてください。次期輪番様の噂は聞こえて来ますが、本山人事「この原稿作成時点」では決定していません。年頭に当たっての挨拶にはなりませんが、皆様には今年も良い年でありますようご祈念申し上げます。

合掌

法座・行事案内予定

1月

元旦　午前零時　修正会　列座
17日　午前11時　群萌の会　列座
18日　午前10時　婦人会（ゲーム大会）昼食あり　列座
22日　午後1時30分　あゆみ会　列座
26日　午後12時　門徒新年会

2月

1日　午後7時　列座学習会　畠山　明光 氏
7日　午後1時　群萌の会　列座
8日　午後1時　マヤの会　列座
13日　午後1時　初心の集い　列座
15日　午後7時　壮年会　列座
16日　午後1時　同朋の会　列座
18日　午後1時　婦人会　列座
28日　午後1時　定例法座　垣原　智章 氏
未定　あゆみ会　列座

3月

1日　午後7時　列座学習会　畠山　明光 氏
7日　午後1時　群萌の会　列座
8日　午後1時　マヤの会　列座
13日　午後1時　初心の集い　列座
15日　午後7時　壮年会　列座
16日　午後1時　同朋の会　列座
18日　午後1時　婦人会　列座
19～21日　午後1時　春季彼岸会　菊地　得典 氏
（20日別院物故者追弔会）
未定　あゆみ会　列座

法仏 あれこれ

お仏供

「お仏供（おぶっく）」（お仏飯（おぶっぱん））は仏様にお備えする白飯で、円筒形に盛り固めます（写真①、②）。この形は蓮の実を模した蓮実形（れんじつけい）と言われます。

盛槽（もっそう）を使って盛り固めます〈写真①〉

仏器（ぶっき）に盛ってお備えします〈写真②〉

朝のお参りの後にお仏供をお備えし、正午にお控え（お下げ）します。これは、お釈迦様の食事が日の出から正午まで（正午の時とも）の一食であり、それに則りお弟子の方々が食事をされたことに由来します。なお、ご法事の時は朝のお参りの後にお備えし、ご法事終了後にお控えします。

花をささげ香を焚き、また供物をささげることについて、「供養（くよう）」という言葉を耳にしたことはありませんでしょうか。ある先生は、供養とは「敬い尊ぶこと」であり、その尊敬の心を表現するために前述のことを行うのであると言われます。敬い尊ぶこと、換言すれば「頭が下がる」ということでしょう。

私達ははかり知れない「いのち」に支えられて一人一人今ここにあります。しかし、このことを知らずに自分の力で日々生きていると思う私です。このような自らの思いに縛られている私が仏様にわが身の事実を教えていただく時、「ごめんなさい・ありがとう」と頭が下がるのでしょう。お仏供をお備えし、お控えして頂く生活とは、敬い尊ぶ仏弟子の生活なのです。

（水上）

報恩講報告　令和六年十一月一～五日

令和六年度旭川別院報恩講を厳修させていただきました。鍵役・宣心院殿の御参修、御法中並びに雅楽会「和暢会」の御参勤、御講師・延塚知道氏、中野誠二氏の御出講、御門徒の皆様の御参拝をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。報恩講を厳修させていただく中に、自身の一生はどこまでも聞法であることを確かめさせていただきました。

本年度も三日・四日のお斎はお弁当を頂きました。また、五日のお斎は幌加内よりそば打ち職人の方々に来院していただき、幌加内そばを振舞っていただきました。遠方よりお越しいただきありがとうございました。

なお、御門徒の皆様には準備から多大なる御尽力を賜り、重ねて御礼申し上げます。

合掌

門徒新年会のご案内

令和七年一月二十六日(日)正午より、旭川別院大谷ホールにおいて「門徒新年会」を開催いたします。参加をご希望の方は旭川別院事務所(☎二二一―二四〇九)までご連絡をお願いいたします。

○日　時　令和七年一月二十六日(日)
　　正午～二時頃まで
○場　所　旭川別院大谷ホール一階
○会　費　一，五〇〇円 ※当日
○申込み〆切　一月二十日(月)

鍋をつつきながらビンゴなどを楽しみ、心温まるひと時を過ごしましょう。皆様のご参加をお待ちしております。

初心の集い

令和七年四月より「令和七年度　初心の集い」を開講します。初心の集いでは身近な仏事などについてお話をしております。「浄土真宗」「お参り」「お仏壇」のことなどをご一緒に確認しませんか？

○日　程　四月・五月・七月・九月・十月・十二月・二月・三月の十三日(計八回)
○時　間　午後一時～三時
○場　所　旭川別院本堂(時期によっては一階広間)
○内　容　お勤め・法話(身近な仏事などについて)
○持ち物　念珠・肩衣(かたぎぬ)・正信偈(しょうしんげ)のお勤めの本
※お勤めの本をお持ちでない方にはお渡しいたします。
※会員制・年会費制ではありませんので、どなた様でもご参加いただけます。

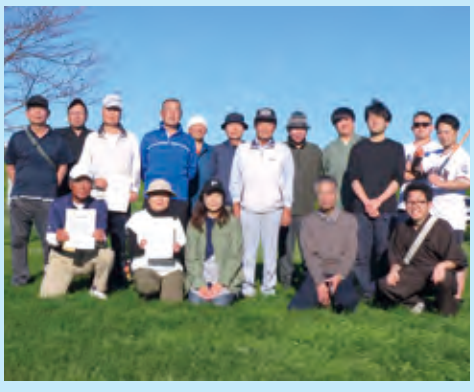
第1回旭川別院輪番杯　パークゴルフ大会開催

九月二十五日。気持ちのいい秋晴れの中、快音を響かせながらご門徒・別院職員がスポーツを通して交流を深めました。

男性の部 優勝　安藤　信幸 さん
女性の部 優勝　塚本千代子 さん

優勝おめでとうございます。

次回開催のご案内を希望の方は、お気軽に担当横井までご連絡ください。たくさんのご参加をお待ちしております。



【開催日決定！】しんらん誕生会　二〇二五年五月十日～十一日

たくさんのご参加お待ちしております。

別院ホームページにて、誕生会の特設ページがありますので、ぜひそちらもご覧ください。

【予定イベント】
(1) 坊主ＢＡＲ(有料)
(2) 新門徒初参式
(3) こども初参式
(4) ビンゴ大会
(5) 第二回雪駄とばし大会(全四部門)　等々

たくさんのイベント・豪華景品を用意してお待ちしております。

救援金のお願い　宗派では、このたびの「令和６年能登半島地震」に対する救援金を勧募しています。皆様からの温かいご支援をお願い申し上げます。▶▶▶

幼稚園型認定こども園 旭川別院附属 大谷さくら幼稚園

＊旭川別院附属大谷さくら幼稚園便り＊

園庭の木々の緑が、赤や黄色、橙色や茶色に変化し、自然の色彩の豊かさを感じさせてくれました。そして季節は冬へ・・・。子ども達は雪が大好き！真っ白な杜に飛び出し、築山を滑ったり、大きな雪玉を作ったり、雪の冷たさや不思議を全身で感じています。

季節の移り変わりを感じる

秋から冬へ

大谷の杜にエゾリスが可愛い姿をみせに来てくれています。

育てたあさがおで色水作り

美味しい野菜がたくさん採れました！

さつまいも、人参、南瓜、じゃがいもなど、育てた野菜が豊作でした。話し合ってメニューを決めて、思い思いにクッキングを楽しみました。

実った苺でジャム作り

ぱんだ（年中）組はさつまいもパーティーを計画。焼き芋、スイートポテト、さつまいもチップスと、さつまいもづくしのお料理を十分に楽しみました

★9月のお楽しみ給食★

人参はすりおろして人参パンケーキに。「いただきま～す♪」「おいしい♥」

★きりん（年長）組 わくわく冒険旅行

時間をかけて話し合いをして計画。行き先は秩父別に決定！ちっくる、めぇーめぇーランド、バーベキュー、チョコフォンデュ、などなど楽しいことが盛り沢山。心に残る思い出の一日になりました。

ご門徒（もんと）の声

初めての報恩講

門徒　塗師久美子

私と旭川別院の出合いは「気になるから見学したい」と母のひと言からスタートしました。二人で見学した帰りの際に声をかけていただいたお坊さんが滝川のいとこと同級生と知り、母と「ご縁だね」と話したことが思い出されます。

私は中学生まで滝川に住み、今年七月末に一人でふらりと子供の頃に育った街並みへ、駅前から歩き出すと右手に「ばらばらでいっしょ」の看板が目にとまり、兄弟が通った幼稚園でした。（私は道途中の犬が怖いと言って駄々をこねていかずじまい、今思えば残念かな・・）

私は旅が好きで若い頃に命の洗濯と称して京都へ行った時のこと、到着翌朝に京都駅前から一番目の訪問先が、東本願寺でした。空気が澄んで心が清々しく思われ歴史が感じられる風情ある大きなお寺を覚えています。再度京都を旅する計画をしているので、東本願寺をもちろん訪れることを楽しみにしています。

父は今年七回忌、母は五月に百一歳で父のもとへ、納骨堂をお参りするうちに色々と声をかけていただき、初めての報恩講へ出席することになりました。協議会・おみがき・華束盛り・本堂の掃除を体験して、新人の私に丁寧に指導して頂き、お礼申し上げます。ありがとうございました。緊張の中にも厳かな雰囲気を感じ充実した時間でした。これからもご縁を大切に感謝の気持ちを忘れずに手を合わせ一日一日を過ごしたいと思います。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。

うどんげ

「聞く」ということ

先日あるご門徒の家でお参りした。九十歳を越える方で一人暮らし、子供は家庭を持ち都会で暮らしているという。お内仏の前で一緒にお勤めをした後、身の上話をされる。過去の戦時中の体験やら年を取ってできなくなった事、子供や孫の心配まで。私自身はただ黙って相槌を打ちながら、黙って相手の話を聞くばかりですが、どこか上の空に聞いていたようにも思う。帰り際に「話を聞いてくれる人がいるだけで有難い」とおっしゃられたことが記憶に残っている。いつかご法話の中で「人間を尊重するということは、相手の話を最後まで静かに聞くこと」という安田理深先生のお言葉を思い出したことである。

親鸞聖人のお言葉の中に、「無眼人（むげんにん）」「無耳人（むににん）」という言葉があります。聖人は私達に向かって眼のない人、耳のない人だと言っているのではありません。私達は仏法を聞くというご縁がなければ、自分の眼で見たものが一番間違いないものであり、自分の耳で聞いたことが一番確かなものだと疑いなく信じていくわけです。仏の教えに出遇うことで、この身が照らされた時にはじめて、よく見える眼・何よりも聞ける耳だと思っていたものが本当だったかと見つめ直されることがあるのだと思います。実は自分の都合の良いように物事を見て、損だとか得だとか自分のことを第一として聞いている。そんな生き方しかできない私達を聖人は 無眼人・無耳人と言われるのだと思います。

どこか自分の価値観をまず中心として聞き、何でも物事を分別しながら過ごしている。そんな我が身を知らされることです。

（小宮山）

真宗大谷派 旭川別院

葬儀への提案

歴史ある本来の姿での儀式

旭川別院を会場とした葬儀式が執り行えるよう準備を致しました。亡き故人とのお別れを告げるだけの告別式ではなく、故人との繋がりを大切にし、仏教本来の儀式に基づいたご葬儀です。どうぞご利用下さい。

大谷ホールは、大きな会場で設備も豊富に備わっております。小規模でなくとも野卓でお葬式をされたい方は是非ご利用ください。

広間

小広間

2階広間

使用料（祭壇・会場費込）

●各広間 …… 100,000円（税込）

●大谷ホール …… 150,000円（税込）

※詳細は別院迄　TEL 0166-22-2409

お知らせ　平素は、事務取り扱いは午前９時～午後４時迄・納骨堂のお参りは午前9時～午後７時00分迄　※場合により変更あり